

エコハウス研究会季刊紙

そらどま

2026年
夏号
第26号

2026.SUMMER vol.26

CONTENT

民家の工房の古民家再生　鈴木家住宅改修工事
大石 智

表紙　鈴木家住宅改修工事
設計　大石 智

SORADOMA



民家の工房の古民家再生　鈴木家住宅改修工事

建築地は静岡県西部に位置し、屋敷から少し南に旧東海道が東西に走り、それと並行するように北側には国道 152 号線が通っているが、いっぽ道を入れば部分的に畑なども残る閑静な住宅街である。
鈴木家は、表門･主屋･離れ･土蔵･付属屋･内門及び塀･内庭などから構成される郷土屋敷構えを現在も残す住宅である。主屋と離れは雁行する形をとり、明治 37 年建築の離れは、寄棟屋根の 2 階建てで、1 階 2 階共に 10 帖と 6 帖のオザシキに 3 帖の前室の平面構成を持ち、大正 2 年建築の主屋は、切妻屋根に重厚な野物の梁組みを持ち、ドマとオザシキ、ナンドの 3 つの平面構成を持ちます。14 代ご当主により、6 年前に東の土蔵を、2 年前に西の土蔵の改修を終え、今回主屋・離れと納屋の改修を実施しました。
外観は出来るだけそのままに、保護のための壁漆喰塗りと木部古色塗装を行った。内部については古民家の寒いを解決するため、まずは古民家の代名詞でもある通風系の高い床下空間を閉じ、室内空間化し空気循環の効果を損なうことが無いように、室内側で断熱と気密を確保し、窓については外観の木製建具の雰囲気を崩すことの無いように内窓を設置した。空気循環する際に、床下エアコンを足すことで穏やかな床暖房効果をつくり出している。加えて土壁が薪ストーブの輻射熱を蓄熱する。そんな改修が古民家の寒いを克服しています。
古民家の屋根瓦下の土と、壁の土の遮熱と調湿の効果が夏期の暑さ対策に有効なことを活かして、そこに新たに断熱と気密、輻射熱の効果を加え、鈴木家は「新しい古民家かたち」を実現しました。







名称：鈴木家住宅 _ 改修工事
構造：木造　伝統構法　2 階建て
延床面積：439.46 ㎡（132.67 坪）
建築設計：有限会社大石設計室
構造設計：有限会社大石設計室
施工：有限会社松永和廣設計事務所
設計期間：2020(R2) 年 11 月　～　2024(R6) 年 2 月
施工期間：2024(R6) 年　2 月　～　2025(R7) 年 6 月

エコハウス研究会学刊紙
そらどま
2026.SUMMER vol.26









改修後(after)

積：372.915㎡(112.582坪)
積：439.463㎡(132.672坪)

正面の二本の大黒柱、大きな梁と堅牢な丸太梁組みが印象的な玄関ドマからは、梯子階段を使い小屋裏部屋へ上がることが出来ます。小屋裏から見える小屋梁の丸太組みも圧巻です!!北の縁側は台所に改修されおかってとして使われていました。

大黒柱と大きな梁、丸太梁は水拭きされ米ぬかで磨き上げられ、土間は断熱され少し嵩上げされ墨モルタルで仕上げられました。玄関サッシは取り外され、使われてなかった大戸を蔵戸風に改修して復活させました。じょちゅうべやは玄関収納に、梯子階段もまわり階段にかけ直し、小屋裏部屋にもスムーズに昇降出来るように .... 小屋裏部屋はご主人の秘密基地に。屋根の室内側にはアルミ遮熱シートを張り日射熱や冷輻射を跳ね返してもらいます。おかっては北の縁側を復活させ、北庭に視線を広げ、天井も 1/3 ほど取り外し、勾配天井として梁組みを見せダイナミックな空間の居間として生まれ変わりました。









雁行する主屋と離れは内庭に面します。主屋がまだ茅葺きだった頃増築されたようで、高さのあるコンクリート束石の上に土台が乗せられていました。離れ 2 階の一段上がった まわり縁からの内庭の眺めは圧巻で非日常を感じられる空間です 。
屋根と外壁はそのままに、壁の漆喰塗りと木部は古色塗装で仕上げを保護。今回改修では古民家の寒いを解決するため、まずは通風系の高い床下空間を閉じ、土間コンクリートと充填断熱で室内空間化し空気循環させます。そこに床下エアコンを加えることで、冷たかった床は穏やかな暖かさを感じる床に....小舞土壁の透気・透湿・調湿の効果を遮ることなく、土壁の内側にポリエステル断熱材を充填し、可変透湿気密シートで隙間風を防ぐ。木製建具の内側には内窓＆ハニカムスサーモクリーン .. この壁構造が、古民家の透湿・透気・調湿・蓄熱の効果を引き継ぎ、新たに断熱・気密を加えることで、季節を問わず一年中快適な空間をつくり出すことが出来ます。









大石 智
Satoshi Oishi
有限会社大石設計室　代表

・1961 年静岡県浜松市生まれ
・1997 年㈲大石設計室に改称
・2004 年建築家吉田桂二の木造建築学校にて木造建築を学ぶその後も吉田桂二氏に師事
・2014 年建築家丸谷博男氏に師事、温熱環境を学び、エコハウスマイスター No.46 号として「そらどまの家」に取り組む。また主に個人住宅の設計に従事、特に木組みによる伝統木構法にも取り組んでいます。

とにかく熱心です。決しておしゃべりではありませんが、仕事の取り組み方が一本の道を歩み、しっかりとした足取りに信頼感が浮かびます。

私の直接の恩師は、奥村昭雄でした。大石さんの恩師は吉田桂二、なんとこの二人は芸大の同級生、卒業設計は共同で芸術大学に取り組んでいます。この時のデーターベースが役立ち、愛知県立芸術大学の設計を基本設計は芸大建築科教室、実施設計は吉村順三設計事務所（チーフ・奥村昭雄）が取り組むことになります。

これからの大石さんの熟練した仕事をますます心より期待しています。

（丸谷博男）

◆ご報告

・2026 年 6 月 24 日、7 月 15 日、8 月 6 日、8 月 26 日
　古民家再生マイスター養成講座実施
・2026 年 5 月 27 日、6 月 25 日、7 月 22 日
　j-sense 定例会実施

代 表 理 事　丸谷 博男（株式会社エーアンドエー・セントラル代表取締役）
理　　事　丸谷 晴道（丸谷建築研究所代表）
理事（事務局長）　磯貝 左千夫（株式会社ジェイボックス代表取締役）

エコハウス研究会 会報　2026年夏号（第26号）2026年　8月10日発行